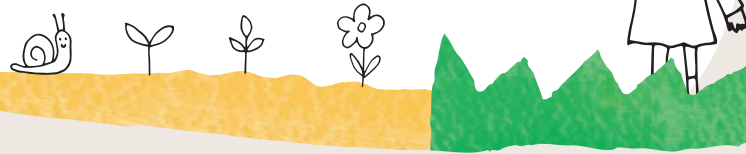


現在助成中の活動をご紹介します。



2022年度東急子ども応援プログラムは、12団体へ総額1,000万円の助成を実施しました。

※掲載の活動内容は、応募時のものです。
活動番号1～12は団体名称50音順です。
団体に(★)印のある団体は、昨年からの継続助成です。



1

子どもたちと農を楽しむ食育活動 ～都筑こども小麦部

<団体名> NPO法人 I Loveつづき (★)

コロナ禍で子どもたちの屋外での活動が大幅に制限される中「都筑こども小麦部」は遠方に行かずに自然に親しめる活動として需要が大きいので、これを定着・発展させるものです。畑での活動を中心に、商品や販売促進活動は昨年をベースにブラッシュアップするとともに、子どもたち発案のイベントを募り、年間計画に加えて実践していきます。



ひろがれ!可能性! ～脳性麻痺児サッカー・ 障がい児サッカー～

<団体名> NPO法人 OluOlu

障がい児の身体的な機能向上と精神的成長を期待し、特性に寄り添いながら活動するサッカー教室の継続的運営と、子どもたちが新たなことに挑戦し自己肯定感を高め、自らの人生を切り開く力を身に付けることを目的としたイベントを開催するものです。ボランティアや活動に関わった人の障がいのある人に対する考え方や行動が変化し、経験や思いを社会に還元していくことも狙いです。



2

青葉台みらいクラブ

<団体名> NPO法人 あおば学校支援ネットワーク

「青葉台みらいクラブ」として、子どもたちの他者との関わりを通じた学びを人生や社会に生かそうとする意欲、未知の状況に対応する思考力、判断力、表現力の向上を目指す活動です。地元商店会と連携して地域とのつながりや仕事の楽しさを発見する「子ども商店会」、社会とのより良い関係づくりを図る「社会とつながるカフェ」、地域の大学や企業と連携して課題解決や価値創造力を育む「子ども青葉台会議」を行います。



3

外国にルーツを持つ子どもたちのための学習支援

<団体名> 一般社団法人 英会話同好会 from OTA

外国にルーツを持つ子どもたちを取り巻く貧困・言語障壁・所属コミュニティの少なさといった課題の解決だけでなく、「質の高い教育をみんなに」を目標に、学習支援の他、非認知能力を伸ばす支援、心を開くことができる居場所としての役割も担う活動です。言葉の壁や貧困などによって狭まっている選択肢が広がるよう、一人ひとりの将来を支援します。



5

持続可能な地域のこども支援の仕組みづくり

<団体名> こども世界テーブル

支援をする人受ける人といった枠組みではなく、コミュニケーションを通してお互い支え合い、学び合い、貢献し合う地域づくりを目指します。子どもの居場所「みんなの世界テーブル」と、その担い手ともなる大人の居場所も併設します。また、食や環境を考えると、冊子を通じた情報発信や農業体験などのイベントも行います。



6

キッズディレクター (楽しいデジタルコンテンツ制作と居場所づくり)

<団体名> NPO法人 ちいき未来

不登校など困難を抱えた状況にある子どもたちに向け「キッズディレクター」サークルを開設し、映像ワークショップやプログラム学習を行います。デジタルコンテンツを活用して地域や他の学生とつながり、自ら創造した作品や思いを社会に発信することを楽しむことで自己肯定感を高め、共同の意識をつくり、子どもたちが前に進むための居場所となることを目指します。



横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト

<団体名> Picture This Japan

言語にとらわれない写真というツールによって、外国につながる10代の子どもの生きる力や自己肯定感の向上を目的とした表現活動や居場所の提供、多文化共生社会への理解促進のためのワークショップや写真展の開催、写真集の寄贈を行います。違いが強みになることを可視化することで、外国につながる子どもたちの希望や活躍の場が広がることを目指します。



8

10

みっけ! 愉快的音楽・田んぼくらぶ： 子どもの五感を育むプロジェクト

<団体名> 愉音

新型コロナウイルス感染症と共に歩む社会にあっても音楽への興味を育み、心豊かな時間を持つ機会を創出するものです。地域社会とつながり、多様な価値観に触れることで地域への愛着や安心感を育むため、音楽と稲をキーワードに「寺家ふるさと村で遊ぼう」「音楽を聴かせながら稲を育てよう」といった稲づくり体験やYouTube配信、バリアフリーコンサートを行います。



ジェネラルサポート “ヤングモア”

<団体名> NPO法人 YUME プラス

地域や学校、関連施設と連携を図り「子育て見守りネットワーク」の構築を目指します。既存の仕組みでは支援が行き届かない子どもや保護者のセーフティーネットとなり子どもたちが安心できるよう、悩みごとの相談や学習支援が受けられる地域の居場所づくりなどを行います。



12

外国につながる子どもたちの居場所「地球っ子教室」

<団体名> 認定NPO法人 地球学校 (★)

外国にルーツのある小中学生を対象に、日本語の指導、学習支援、居場所の提供を行う「地球っ子教室」を安定的に開催し、子どもたちの学びを支え、安心・安全な居場所をつくるものです。コロナ禍でも、毎週同じ曜日・時間・場所での対面教室とオンライン教室の開講を継続し、現役社会人や学生といった若手層や地方在住者にも広がり多様化した支援者をサポートするチューター制度も実践します。



コミュニティカフェを基地とした子どもと大人と一緒に会社を作る事業

<団体名> NPO法人 街カフェ大倉山ミエル (★)

子どもや親たちの自律的な企画や運営が実践され、新しい地域のつながりが生まれる中、昨年の「放課後ミエル」に参加する小学生から発案のあった「コミュニティカフェを基地とした子どもと大人と一緒に会社を作る事業」に挑戦します。学校でも家庭でもない第三の居場所で子どもと大人が出会い、対話し、共に決断し、実行し、考えることを通して社会や地域とつながりを深めることを目指します。



子どもの家庭での虐待予防に有効な「ホームスタート」事業の運営

<団体名> ワーカーズ・コレクティブ
子育て応援チームすこっぷ

すべての子どもが親から虐待されることなく健全に育つことを目指し、世田谷で孤立やコロナ禍での不安など育児に困難を抱える家庭一つひとつに丁寧に家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」を行えるよう、ホームスタートの認知拡大と運営の安定化、ホームビジターの養成・スキルアップを図るものです。

